

校長室から (NO. 9)

「こういうときは、ああすればいいんだよね」

2年生の子供が、虫かごに入れていた水を多目的ホールでこぼしてしまいました。床にぱあっと広がった水を何人もの子供が見ていました。たまたま私もそこにいる一人でした。私が周囲にぞうきんはないかと探している矢先、1年生の女兒が、「こういうときは、ああすればいいんだよね」とつぶやきました。私は、どきっとしました。その言葉を言い終わると、この女兒のとった行動は、言わなくても想像がつくかと思います。

「ああ、困っている友達がいるな」という気付きは、その光景を目にした誰もがもったにちがいありません。「手助けしてあげようかなあ」と考える子供もいたでしょう。しかし、そこから一歩進めて、助けるために何をしたらよいか、と具体的に考えることは、意外と難しいかもしれません。あるいは、水をふかなければ、この問題は解決しないことは分かっているても、「わたしがやらなくてもいいかな…」という別の気持ちが出てくるかもしれません。

様々な心模様を想像するにつけ、この女兒が、アクションを起こすスイッチを入れるかのように、「こういうときは、ああすればいいんだよね」と自分に言い聞かせ、ぞうきんを取りに行き、一生懸命こぼれた水をふいている姿に対し、感動しないわけにはいきませんでした。

もし、この出来事を「道徳教育」の成果だと言わせていただけのならば、ありがたい。

様々な事象を自分自身の問題として受け止め、物事を多面的に考え、自己の生き方について考えを深めていく学習「特別の教科 道徳」を重ねていく中で、この女兒のように、道徳的な判断力、心情、そして実践意欲と態度が育っていくことを今後も期待したいと思うのでした。

